

不妊治療支援の間口は大きく

横浜市会議員 伏見ゆきえ



伏見ゆきえ

1968年川崎生まれ横浜育ち。私立橋女子高卒業後、歯科医院、ヤクルトレディーなどを経て2015年に横浜市会議員初当選。現在2期目。
連絡事務所 / 〒244-0816 戸塚区上倉田町
390-1表ビル1-B ☎045・443・5757 / ☎045・443・5671 / Facebookで日々の活動更新中!

「よこはま自民党」で 第1回定例会本会議(2月9日)では「市職員の願って不妊治療に取り組む人への支援として、保険適用の拡大や、仕事と治療の両立を可能にする環境整備の必要性を訴え費助成申請の件数増加」

「職員が安心して出生支援休暇を活用できるため」
「特定不妊治療費助成申請の件数増加」
「特定不妊治療費助成申請の件数増加」

厚生労働省の調査では治療と仕事の両立ができていないと答えた人は約5割だけで、職場との共有を「一切していない」と回答した人は約6割でした。これは市職員の中にも該当者がいるのではという懸念を抱かせます。

また現状、特定不妊治療は社会保険適用外で全額自己負担です。負担の軽減を図る目的で市は助成金を支給、さらに党の政策で21年1月からは助成対象の所得制限を撤廃、支援の拡充を図りま

した。現在、令和4年度からの保険適用についての議論が進められていきます。しかしその狭間で支援が行き届かないということがないよう、また、助成制度の撤廃などが無いよう要望しました。

「接種券なし接種」を市内4カ所でする
新型コロナウイルス3回目接種「接種券なし接種」が市内4カ所の集団接種会場で実施されています。詳細は市新型コロナワクチン接種特設ページでご確認下さい。接種を希望される方が、きちんと接種できるように島村大厚生労働大臣政務官にもご尽力を頂きました。